

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社 グランファリスナー		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200385&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①音楽療法を軸に歌唱、ハーモニカ、読み聞かせ、編み物等利用者様が自主的に楽しみを見つけ、毎日を穏やかに生活する。
- ②天気が良ければ毎日体力に応じた散歩をして体力を維持する支援をする。
- ③季節を感じる手作りのしよくを楽しむ支援をする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角で、隣地には地域の神社や公園があり、利用者の散歩などもしやすい場所に建てられている。利用者の個性を尊重し、現在の健康状態を維持・管理し、毎日の散歩を継続しており、認知症が重くなっても暮らして行けるよう支えていく方針で運営している。利用者ごとに、生活習慣をできるだけ取り入れて暮らせるよう取り組んでいる。音楽療法にも力をいれ、その成果は市のケアネット会議で報告を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々眼につくところに貼り共有し実践できるよう努力している	開設から3年が経過したときに、地域密着型サービスの意義に合うよう、運営理念を追加した。運営理念は毎日の業務予定表に明記され、職員が毎日確認できるようにしており、週に1~2回は、皆で声を出し読み合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等に参加していただいたり散歩時の交流等努力している	事業所主催の夏祭りは、近隣・地域にも戸別に案内し、参加者も増え、地域に定着してきた。民生委員の仲立ちで、地域にある2つの保育園の運動会に出かけるなど交流がある。自治会への加入は、事業所とし依頼しているが、まだ、受け入れてもらっていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの研修を受講させ地域の要請があれば対応したいと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で当施設のサービスの現状を理解してもらっている	家族の代表、市・地域包括支援センター職員、民生委員、施設長、職員をメンバーとし、昨年は5回開催した。会議では、利用者の現状の生活を維持するための課題等を話し合い、そこでの意見を支援に反映するように努力している。	運営推進会議に地域代表の出席を依頼しているが、なかなか実現できない。色々な機会をとらえ、ホームと地域との関わりの大切さを理解してもらい、参加が得られるよう働きかけられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連携を密にし指導を受けている	市職員は運営推進会議に毎回出席しており、市からは色々な情報を得ている。また、毎月1回、市主催のケアネット会議が開催されており、事業所からも2名は参加するようにしている。会議では、事業所のケアの取り組み等も報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学習し取りくんでいる 屋中は玄関の施錠せず経過をみている	高齢者虐待や身体拘束の防止について学習し、その対策委員会もつくり取り組んでいる。昼間は施錠せず、利用者の外出傾向を早めに察知する方法を検討し、玄関の開錠を実施するなど、具体的に取り組み、経過を見ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底するよう毎朝のミーティングにも話し合っている 虐待防止委員会設置し取り組んでいる		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の進んだ2人の方に成年後見人制度活用を勧め決定を得るよう支援した研修を受け日常的に事例を通し話あっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明を丁寧に実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で話われたことやご家族からの意見を反映するよう努力している	家族の面会は週に1・2回ほどで、少ない人でも月に1回はあり、家族の意見や希望を尋ねている。また、運営推進会議でも家族から意見を出しやすいように取り組んでいる。利用期間が長くても健康状態が維持できていることに、家族からも感謝されており、今後も維持できるよう、事業所として取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスを月1回設けて意見を取り上げるように努力している	職員ができるだけ多く出席できる日を選び、カンファレンスを開催している。また、欠席者や意見のある者は、前もって、話し合いたい内容を記入した「稟議書」を作成し、経営者に提出するシステムもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の一般水準等を調査し条件整備に努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内での研修も計画し、部外研修には積極的に参加するよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加し且つ、研修に参加、サービスの質を向上させようと取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には特に、安心、安全を念頭に関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも安心していただけるよう要望に耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応には「今」何を求めているか？支援の方法を見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に共生の理念を活かすよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が協力して利用者様の自立支援に向け努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が持続するよう援助している	「家族は決してあなたのことを忘れていない」と利用者に伝え、家族とのつながりの継続に重きを置いている。月々の支払いは、直接、事業所を訪れることとする等、面会が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を把握し支えあう関係になる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方との関係も必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望をくみ取れるよう努力している	利用者の様子をよく観察し、散歩時や夜間、また、個別の支援中に聴き取ったり、汲み取った思いを記録に残し、職員で共有し、嫌いなことやいやな表情のあったことは再現しないように話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時等、ご利用者様と家族から情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、体調を含め状態に合わせて援助している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行い現状にあった介護計画になるよう努力している	日々の支援やケアの中で、職員が気が付いたことや、申し送りのあったことを確認し、ケースカンファレンスで介護計画に反映させている。家族の面会時に意見や希望を尋ね、計画に反映できるよう取り組んでいる。協力医の意見や家族から聞き取った受診時の医療情報も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が次の実践への気づき、工夫になるよう検討し改善している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性ケアを日常的に追究している		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不十分では有るが地域資源を活用できるよう努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期的に連携医の健康管理を受けているがご利用者様と家族の希望に沿ってかかりつけ医の治療を受けている	週1回の協力医の往診により、健康管理に努めている。従来のかかりつけ医へは、2ヶ月に1回は受診できるよう、家族に受診支援を依頼している。かかりつけ医への受診時には、日常の健康状態を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に2人看護職がいる為、看護職と連携医、かかりつけ医の連携で健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは早い段階から進めている	医療行為を必要とする終末期の支援については、協力医、職員、その他の要件から取り組まない方針でいる。認知症のみの場合は重度化しても支援する方針で取り組んでいる。事業所が支援できる範囲を家族に説明しており、各段階で医師と家族が充分話し合えるよう支援し、職員とも方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時について検討している。実践力について今一步と考える		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害について話し合いをしているが地域との協力体制が不十分である	昼間の火災を想定した訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練は行われていない。また、地域からの応援や支援を得る等の取り組みは行っていない。	運営推進会議を通して、地域役員に地域の人にも参加してもらえるよう働きかけてもらったり、運営推進会議開催日に消防署が来訪する火災訓練を行ったり、夜間を想定した訓練を行う等の取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護記録に特記じこは反対色のボールペンを使用し、記録して職員の注意をうながしている 個別性支援について日々努力している	昨年、接遇について外部講師を招き研修を行った。高齢者虐待や身体拘束も含めた研修内容から、委員会も立ち上げ、職員間でプライバシーに配慮した言葉遣いの取り組みを実践した。3ヶ月程経過し、職員相互に、遠慮なく言葉遣いについての意見が述べられるほど、意識が高まってきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定し納得しながら暮らせるよう援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人らしさを尊重し希望をいかしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節はずれの服装等の際は季節を知らせ身だしなみが整うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に地方色を生かした食事等、話題にしながら食事の準備をしている	芋の皮向きや豆の筋とりなど、調理の下ごしらえは、個人の状態に合わせて職員と共に行っている。食材の購入は委託しているが、利用者の好みを聞きながら食材を変更する等柔軟に対応している。親族からの野菜の差し入れもあり、旬の食材を使った食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量は本人の適量を聞き、かつ栄養バランスを維持できるように、又、夏場の水分ミネラル確保には注意して援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人に働きかけ、自立していない人には口腔ケアをしている		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援の担当者を決め、その方針に沿って個別支援をしている	排泄は自立している利用者が多い。支援が必要な利用者には、担当職員が個別支援の方法を計画し、実施している。支援計画は、ケアカンファレンス等で、全職員が把握し、2名の看護師にアドバイスを受けながら、失敗の少ない排泄を目指し取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の冷水を飲む等、個々に応じた援助をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴タイムはあるがタイミングの合わない人には個別にどんな時間でも合わせて支援している	入浴は午後の時間帯に決め、ユニットごとに入浴しているが、タイミングが合わない場合は、順番を変えたり、気の合う利用者同士で誘い合ったり、他の利用者がいない夜間に入浴する等、利用者の好みを聞きいれるよう工夫し、入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠生理に合わせて日光浴等も試み又、夕方くつろぎタイムの援助を工夫し安眠への援助をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の好みを活かすよう気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出支援をしている	20～30分で往復できる散歩コースが2・3あり、個人の希望や体調に合わせ、午前中に出かけている。喫茶店には、少人数で何回にも分けて、職員と外出している。家族が毎週訪れ、一緒に地域を散歩する利用者もあり、家族と話し合いながら支援を続けている。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知状態を見極めながら本人にお金を所持してもらっている(盗られ妄想の強くない人)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居心地には季節感を採り入れて十分な配慮をしている	リビングから広いウッドデッキに出入りでき、外にある事業所の畑も見ることができ、開放感がある。音楽療法を取り入れていることからピアノがあり、利用者も時にはピアノの前に座る光景もある。2つのユニットが同じフロアで繋がっているが、リビングもそれぞれにあり、明るく広い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での椅子とり等にも配慮し援助している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の居心地には家族と相談し工夫している	開設以来の利用者も半数以上いるため、居室に自分の大切にしている物が増え、それぞれ個性のある部屋になってきている。ボランティアで実施しているフラワーアレンジメントで作った花の飾りが沢山飾ってある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の安全に留意している		